

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年 1月 16日

1. 職名・氏名 准教授・池田美穂

2. 学位 博士（理学）、専門分野 植物分子生理学、授与機関 筑波大学、授与年 2003年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 遺伝学 II (2 単位) 2 年生 オムニバス講義（担当コマ数 13 コマ）
②内容・ねらい 生物学全分野の基礎でもある遺伝学について概説する。本講義では前期履修の遺伝学 I の知識、および、高校生物、高校数学の知識をベースとして、集団レベルでの遺伝子型の変化である「集団遺伝学」と、人為的選抜による育種の基盤知識となる「量的形質の遺伝」について知識を深め、身近な現象を「集団遺伝学」、「量的形質の遺伝」の観点から考え、理解することを目指した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義は対面で行った。主たる講義内容である「集団遺伝学」と「量的形質の遺伝」の概念が難解なことから、講義スライドにイラストを用いてイメージを掴みやすくする一方で、数学的な手法を用いるなど説明を工夫した。さらに、理解を深める目的で、講義中、実際の例を用いた類似の演習に取り組みさせるなどの作業を課した。パワーポイントを用いた講義であったため、ノートが取りにくいことを考慮し、重要ポイントを穴あきにした資料を作成して配布、講義中に穴を埋めさせる方式を用いた。毎回の講義後は退出前にミニ課題と感想を提出させることで学生の理解度や疑問点、興味を確認した。提出された課題は丸つけし、一人一人にコメントを書いて次回に返却することで、学生の疑問点や誤解を補う努力をした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 生物学 II (2 単位) 1 年生 オムニバス講義（担当コマ数 7 コマ）
② 内容・ねらい 生物学の諸領域のうち、遺伝学、植物学、生態学の基礎的な事項について概説する。講義は、それぞれ専門領域の近い教官が担当する。生物学 I に引き続き、生物資源学科 2 年次以降の専門科目を理解するために必須な基礎的知識や考え方を習得する。特に、生物学 II では、植物における生命現象を理解することと、生物間の相互関係に基づいて生態系のしくみを理解すること、生物進化のしくみについて基礎的知識と考え方を理解すること、地質学的な時間軸上で生物進化についての基礎的知識を習得すること、を目標とした。担当したコマにおいては、植物の進化、体制、幹細胞新生、生殖、受粉受精、発生、環境応答、植物バイオテクノロジーに関わる基礎的な事項について講義を行った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 身近な植物現象への興味を高め、高校で生物を選択していない学生にも理解しやすく、生物選択の学生はより知識を深められることを念頭に置き、必要に応じて動物と植物を比較するなどの工夫を行うとともに、動画、写真、イメージ図などを含むスライドを用いて講義を行った。

また、パワーポイントを用いた講義ではノートが取りにくいことを考慮し、重要ポイントを穴あきにした資料を作成して配布、講義中に穴を埋めさせる方式を用いた。毎回の講義後は退出前にミニ課題と疑問点・感想を提出させることで学生の理解度と興味を確認した。課題は丸つけし、一人一人に疑問の回答や付加的な情報などを書いて次回返却した。コメント返却によって個々の興味と学びを深められたというポジティブな感想が寄せられた。

担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

① 科学英語Ⅰ（２単位） ２年生 オムニバス講義（担当コマ数 ７コマ）

② 内容・ねらい

科学英語論文は、具体的内容を間違いなく読者に伝えるために、直接的で、短く、正確な文章で構成される。科学英語論文の理解には、専門的な語句や表現に慣れること、文法に則って文章を解析することが必要である。科学英語論文を読解するための、化学と生物学を中心とした基本的な専門用語を学び、英文法および論文構成に則って、簡単な英文ニュースや英語科学論文等を読解する。また、英語でのメールでのやりとりや英語論文の査読、研究発表について実例を踏まえて講義し、研究に必要な英語力を深める。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

私の担当コマにおいては、遺伝子組換え・ゲノム編集に関する科学記事をテキストとして、読解を行なった。近年中に一般発売される予定のゲノム編集作物に関連する記事や、絶滅した生物の復活に関する記事など、トピックス性の高い記事で、かつ、研究推進の手順や研究戦略の概念を含むものをテキストに用いることで、学生が興味を持って読みつつ、生物系の論文や記事に多用される表現を学ぶことができるように留意した。また、科学研究を取り巻く社会情勢などに関する記述を含みつつも思想が偏りすぎないように、同じトピックスに関して、複数の記事を読解した。

担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

① 生物資源学概論（２単位） ２年生 オムニバス講義（担当コマ数 １コマ）

② 内容・ねらい

生物資源学科の特色ある研究領域（応用生化学、分子機能科学、分子生物学、植物資源学）に別れて、生命・食・環境分野における生物生産に関して包括的な内容の授業を行う。私の担当コマにおいては、植物バイオテクノロジー分野、特に現代において実際に用いられているオールドバイテクの技術について解説した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

植物バイオテクノロジー技術と、それを使って生産・開発された商品（農作物や観葉植物など）に関連づけて説明することで、バイオテクノロジーが教科書や物語の中のものではなく、身近で必須な技術であると感じられるように留意した。また、その技術を支える基盤知識などにも若干踏み込むことで、今後の学科の各専門分野の科目に対する興味を促進できるよう、気をつけた。

担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

① 生物資源学概論Ⅰ（２単位） １年生 オムニバス講義（担当コマ数 １コマ）

② 内容・ねらい 生物資源学科の特色ある研究領域（応用生化学、分子機能科学、分子生物学、植物資源学）に別れて、生命・食・環境分野における生物生産に関して包括的な内容の授業を行う。私の担当コマにおいては、植物バイオテクノロジー分野、特に現代において実際に用いられているオールドバイテクの技術について解説した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 植物バイオテクノロジー技術と、それを使って生産・開発された商品（農作物や観葉植物など）を関連づけて説明することで、バイオテクノロジーが教科書や物語の中のものではなく、身近で必須な技術であると感じられるように留意し、今後の学科の各専門分野の科目に対して興味を持って取り組んでもらえるよう、気をつけた。
担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ① 暮らしを支える生物資源 （2単位） 1年生 オムニバス講義（担当コマ数 1コマ）
② 内容・ねらい 本講義では、微生物から動植物までさまざまな生物資源を対象に、最先端技術の研究や福井の活性化を目指した地域貢献研究を幅広く紹介する。また、作物の品種改良、次世代の栽培技術、食品の製造・流通、持続可能な環境保全に関する研究など、生物資源の利用（食・農業・環境・文化・生活）全般に関する研究も取り上げる。私の担当コマにおいては、社会課題の解決に対して科学技術がどのように寄与しうるのであるかを考えるため、福井県の伝統工芸技術である越前和紙の原料供給に関する研究を解説した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 越前和紙に代表される日本の手漉き和紙に特有の技法「流し漉き」に必須な粘剤「ネリ」の原料であるトロロアオイという植物の供給を例とし、トロロアオイの歴史や、現在の栽培・利用の状況、解決すべき課題と、その解決に対して植物バイオテクノロジーがどのように寄与しうるのであるかを論じることで、個々の学生がこれから学ぶ専門分野の知識を持ってどのように社会に貢献していくことができるかを考える機会になるように留意した。
担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ① 地域生産実習 （1単位） 2年生 オムニバス講義（担当コマ数 1コマ）
② 内容・ねらい 地域の研究機関や民間企業の研究部門を中心にして訪問し、県の行政におけるそれぞれの研究機関の役割や、企業における研究組織の内容および生産施設の実態等について学修する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 私の担当コマにおいては、県総合グリーンセンターを訪問した。全体説明ののち、「木材加工」「キノコ（マイタケ）の育種」「無花粉スギの作出と育苗」の現場を見学した。学生を3つの班にわけて少人数で見学を行うことにより、短時間で密度の高い見学を可能にした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 生物学実験 （1単位） 1年生 （担当コマ数5コマ）

② 内容・ねらい 実験圃場でのトウモロコシの栽培を通じて、作物の形態、分類、同定、生育特性、収穫量の評価方法を学ぶとともに、実験室内のさまざまな環境でトウモロコシを発芽させ、環境の違いによる形態の変化を観察する。また、PCRを用いたDNA断片の増幅と電気泳動による解析を学ぶ。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生1名ずつ、栽培スペースと担当する株を割り当て、草取りや施肥を各自が行うようにすることで、作物の栽培がいかに大変かを体験できるようにした。環境の違いによる実生形態の変化の観察においては、暗所、明所で発芽したトウモロコシ芽生えの観察・サイズ測定に加えて、excelを用いて平均・分散などを算出した。実験そのものは単純ながらも、あらかじめ予想を立ててから観察を行うことで、予測と同じ・違う結果になった理由などを考察できるように工夫した。また、結果を統計分析する手法も学んだ。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 応用生物学実験（2単位） 2年生（担当コマ数5コマ）
② 内容・ねらい 市販の遺伝子組換え植物体からのゲノムDNAの抽出、PCRによる組換え遺伝子の増幅、電気泳動による検出、および、組換え遺伝子によって生産された代謝産物の検出といった一連の解析を通して、植物を対象とした分子遺伝学的な実験技術や、試薬類の取り扱いを学ぶとともに、遺伝子組換えに関する知識を培う。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 「組換え遺伝子検出の理論を理解し体験してもらうこと」、および、「実験は成功するとは限らないので、失敗した時の考察が大切と覚えてもらう」ことを目的として、学生を5人ずつの班にわけ、市販の遺伝子組換えカーネーション4種と、非組換えカーネーション1種から各人1種のカーネーションを担当し、自分の担当したカーネーションが組換え体かどうかを判定した。随時、理論的な説明を行い、ワークシートなどを用意、例えば、「紙の上でゲノム配列上のプライマーの位置を探す」「不適切な結果が出た原因を考察するためのチャート」などで作業を行うことで、実験作業に対する理解を深める努力をした。データからどここの作業に問題があったかを考察できるようにした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 生物資源学特別講義Ⅰ リサーチクレジット（1単位） 2年生
② 内容・ねらい 各研究領域の教員の指導を受けながら、実験を実施することで、研究の進め方や思考方法、実験・調査・解析の方法を修得する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 受講者6名を3人ずつのグループにわけ、各グループ1週間に1～2時限ずつ、実験作業を行なった。実験作業は分子遺伝学的実験、生理学実験、圃場での実習などを含む、幅広い内容を含み、より多くの実験技術に触れる機会を設けた。また、各実習の前に十分な説明を行うことで、実験内容に対する理解を深める努力をした。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 専攻演習（4 単位）4 年生
② 内容・ねらい 文献紹介および卒業論文研究検討会をなど通じて、自らの研究についての理解を深め、英語読解能力、および、プレゼンテーション能力の向上をはかる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 文献紹介では、1 報の論文を全て読んで詳細に報告する方法と、論文のトピックのみを短く紹介する方法との、2 通りで文献紹介を行う事で、英文読解能力と要点のプレゼンテーション能力の両方を高める工夫を行っている。卒業論文研究検討会では、自身の行なっている研究の背景、目的、研究戦略、結果をわかりやすく聴衆に伝えるために、まずは自分の研究についてよく考え、理解し、周囲の先輩や同級生の助けを借りつつ、プレゼンを作って試行錯誤することを重視する。個々の学生が必要とするタイミングで必要なサポートを過不足なく行うように心がけている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業論文（8 単位）4 年生
② 内容・ねらい（自由記述） 卒業論文研究の指導と卒業論文執筆の指導を行っている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 卒業論文研究指導では、個々の学生の資質や利点を伸ばし、苦手を克服できるように心がけている。本人の資質に合わせて適切なマイルストーンを設置し、各自が自分のスケジュールを管理し、実験作業を遂行することでマイルストーンに至ることができるよう、随時指導している。1 週間に 1 度の対面での打ち合わせで、研究の困りごとの解決策や次のマイルストーンを示し、月に 1 回の研究グループでのプロGRESSミーティングで、それぞれの研究のまとめと発表を行わせている。プロGRESSミーティングにおいて、他の人から質問を受けることで、自らの研究をより深く考え、また、他の人の発表に質問することで、自分以外の人の研究について考え、理解する経験をすることができる。
担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ① 遺伝資源学（2 単位） 博士前期課程（担当コマ数 7 コマ） ② 内容・ねらい 近年の技術革新が目覚ましいゲノム科学について身近な例を交えながら概説する特論である。私の担当コマにおいては、遺伝子組換え・ゲノム編集技術に関する研究戦略について解説した。また、後半の講義においては、個々の学生が自ら選んだテーマについてプレゼンし、全員でディスカッションを行った。 ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 私の担当コマにおいては、研究戦略を立てる際に留意すべき点や、遺伝子組換えコンストラクト作成の際の留意点などを解説した。実際の成功例に加えて、失敗例も解説することで、

自らの研究戦略、研究活動に活かしてもらえように心がけた。 ゲストスピーカーとしては植物のエピジェネティック制御の第一人者である木下哲教授(横浜市立大学)をお招きし、シングルセル解析を用いたエピゲノム研究の最前線について(成功点に加え、方法論の欠点や、解析上で気をつける点なども)ご講義いただいた。 また、後半の講義においては、個々の学生が自ら選んだテーマについてプレゼンし、全員でディスカッションを行った。 【ゲストスピーカー 1人】
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 植物資源学専攻演習(4単位)博士前期課程
② 内容・ねらい(自由記述) 文献紹介および修士論文研究検討会を行っている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述) 文献紹介では、紹介する論文だけでなく、その分野全般についてのイントロダクションを加えるよう指導している。また、面白い論文を選んでそのトピックを短く紹介する演習も行い、要点を手短にまとめて話す訓練も行っている。修士論文研究検討会では、4年生にも理解できるように、平易に解説するように指導している。他人に理解してもらう努力をすることが本人の理解につながる。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 植物資源学専攻実験(8単位)博士前期課程
② 内容・ねらい(自由記述) 修士論文実験の指導
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述) 修士論文研究指導では、その研究の意義や位置付けを理解させ、実験結果が原著論文になるように指導している。また、問題解決を学生自身で行うよう導いている。
(2)その他の教育活動
1) 学生と一緒に越前和紙原料植物の研究を行っており、越前和紙工業協同組合、および、組合に所属する伝統工芸士から現場における原料植物の利用方法や原料の問題点、越前和紙の置かれている現状などの聞き取りを行っている。
2) 若狭湾エネルギーセンターにおいて、越前和紙原料植物トロロアオイの種子に重イオンビームを照射し、学生とともに永平寺キャンパスの圃場で栽培している。
3) 週に1回(原則、月曜日午前)に、風間研と西嶋研合同で学生と一緒に実験室と研究室の掃除を行っている。これによって、整理整頓の大切さと実験スペースの清浄化の重要性を教育している。また、全員で作業することで、研究室員間のチームワークを深めている。

4) 週に 1 回程度（必要な場合には都度ごとに）、1 週間の研究の進捗状況のチェックと研究方針の検討を行っている。これによって、学生が研究方針を見失うことなく、研究活動を実施している。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【0本】
② 学術論文（査読あり） 1. Arabidopsis homeodomain transcription factor BRASSINOSTEROID-RELATED HOMEODOMAIN 1 represses brassinosteroid responses under stress conditions. (2025) Reika Hasegawa, <u>Miho Ikeda</u> , Kenjiro Fujita, Yuichiro Tanaka, Hironori Takasaki, Yuka Kinugasa, Ryo Tachibana, Ayumi Yamagami, Takahito Nomura, Tsubasa Yano, Nobutaka Mitsuda, Takeshi Nakano, Masaru Ohme-Takagi, JOURNAL OF EXPERIMENTAL BOTANY,76, 4555-4567. DOI: 10.1093/jxb/erf233 2. Effect of heterozygous deletions on phenotypic changes and dosage compensation in Arabidopsis thaliana. (2025) Takuya Ikoma, Ryo Nishijima, <u>Miho Ikeda</u> , Kotaro Abe, Nagalla Asanga Deshappriya, Tomoko Abe, Yusuke Kazama, Scientific Report, 15(1), DOI: 10.1038/s41598-025-98141-6 3. Mutation in OPR3 ortholog affects stamen function but not petal size in Torenia fournieri. (2025) Takahiro Mayuzumi, Shoto Morizumi, Miho Ikeda, Sachihito Matsunaga, Yusuke Kazama, CYTOLOGIA, 90, 187-194. DOI: 10.1508/cytologia.90.187 4. Oryza sativa Baby Boom1 converts the developmental fate of rice egg cells from gametic into somatic status. (2025) Shin-nosuke Masuo, Nargis Akter, Shizuka Koshimizu, Kasidit Rattanawong, Takunori Kitta, Yuna Taki, Atsuko Kinoshita, Aya Satoh, Hironori Takasaki, Miho Ikeda, Yoshimi Oshima, Nobutaka Mitsuda, Masaru Ohme-Takagi, Kentaro Yano, Takashi Okamoto, ISCIENCE, 28(10), DOI: 10.1016/j.isci.2025.113621	【4本】
③ その他論文（査読なし）	【0本】
④学会発表等 <国内学会> *1. <u>池田美穂</u> ,生駒拓也, 西嶋遼, 光田展隆, 中山潤, 山形翼、「改変型転写因子が誘導する不定芽形成・不定胚形成の初期の異所的細胞分裂の細胞学的観察」 第66回日本植物生理学会、金沢、2025年3月14-16日 2. 滝友菜、荻原雪乃、Kasidit Rattanawong、澤本陸、Valeria Vetencourt、高崎寛則、池田美穂、大島良美、貴嶋紗久、光田展隆、高木優、岡本龍史、「イネ卵細胞における自律的発生を制御する誘導性および抑制性因子の機能解析」 第66回日本植物生理学会、金沢、2025年3月14-16日 3. 小林壮生、篠原秀文、西嶋遼、池田美穂、Dmitry A Filatov、風間裕介、「Functional analysis of two CLV3 orthologs reveals dioecious evolution in Silene latifolia.」 第66回日本植物生理学会、金沢、2025年3月14-16日 4. 五十嵐由依、杉本愛華、小林壮生、乾弥生、工藤洋、山本将之、松永幸大、風間裕介、池田美穂「シリンジ法による難形質転換植物への簡便な遺伝子導入」 日本メンデル協会第2回大会、福井 2025年6月 5. 高橋望花、大関澄花、小嶋美紀子、竹林裕美子、榊原均、嶋田千香、池田美穂、「Abelmoschus Manihot—越前和紙用系統と観賞用系統の比較」 日本メンデル協会第2回大会、福井 2025年6月	

6. 黛隆宏, 森住匠翔, 池田美穂, 松永幸大, 風間裕介「トレニアにおける *OPR3* オーソログ欠損変異体の解析」日本メンデル協会第2回大会, 福井 2025年6月
7. 五十嵐由依, 杉本愛華, 小林壮生, 乾弥生, 工藤洋, 山本将之, 松永幸大, 風間裕介, 池田美穂「シリンジ法による難形質転換植物への簡便な遺伝子導入 第41回 日本植物バイオテクノロジー学会, 神戸, 2025年9月5日-9月7日
8. 高橋望花, 大関澄花, 小嶋美紀子, 竹林裕美子, 榊原均, 嶋田千香, 池田美穂, 「*Abelmoschus Manihot*」越前和紙用系統と観賞用系統の比較」 第41回 日本植物バイオテクノロジー学会, 神戸, 2025年9月5日-9月7日
9. 小林壮生, 篠原秀文, 西嶋遼, 池田美穂, Dmitry A Filatov, 風間裕介, 「マンテマ属における植物性決定遺伝子 *GSFY* の保存と機能分化」日本遺伝学会第98回大会, 神戸 2025年9月
10. 小林壮生, 篠原秀文, 池田美穂, 西嶋遼, Dmitry A Filatov, 風間裕介, 「マンテマ属における性決定遺伝子 *GSFY* オーソログの進化」日本植物形態学会第37回大会, 福岡 2025年9月
11. 小林壮生, 篠原秀文, 池田美穂, 西嶋遼, Dmitry A Filatov, 風間裕介, 「雌雄異株植物ヒロハノマンテマの X 染色体はメス化を促進する」NIG-JOINT 研究会「染色体構成と核型からみるゲノムの多様性とその理解」, 静岡 2025年9月
12. 小林壮生, 風間裕介「マンテマ属の性決定遺伝子 *GSFY* の進化と雌雄異株化」 挑戦的両性花原理若手の会 2025, 静岡 2025年10月
13. 小林壮生, 篠原秀文, 池田美穂, 西嶋遼, Dmitry A Filatov, 風間裕介, 「雌雄異株植物ヒロハノマンテマの性決定遺伝子 *GSFY* オーソログの進化」 北陸植物学会第15回大会, 石川 2025年11月
14. 落合詩月, 西嶋遼, 畑中悠那, 篠山治恵, 小林壮生, 池田美穂, 風間裕介, 「接触刺激応答プロモーターの同定と花色改変への応用」学変B 東京 2025年12月
15. 池田美穂, 西嶋遼 「越前和紙「ネリ」原料植物トロロアオイの保全・供給の基盤整備」 先進ゲノム支援 拡大班会議, 神奈川, 2025年12月11-12日

【15件】

⑤その他の公表実績

<招待講演>

*1、池田美穂「文化を守る、新しい事業モデルー和紙原料植物の活用による伝統文化支援」、FUKUI Interdisciplinary Fes. 福井県、2025年8月25日

<マスコミでの発表>

1. 福井新聞 7面「越前和紙原料を改良、粘液つくる植物トロロアオイ、池田・県立大准教授 安定供給へ研究」2025年9月12日
2. 福井テレビ FUKUI クエスト 2026年1月24日放送予定

<その他>

1. 河合塾 みらいぶっく、執筆

【3件】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】【4件】

1. 文部科学省 科学研究費補助金 挑戦的研究 萌芽 課題番号：23K17517 (2023～

2025 年度)「伝統文化の持続性に資する、植物組織培養を活用した和紙原料植物供給技術の開発」、研究代表者、6,370 千円 2. 若狭湾エネルギー研究センター 公募型共同研究 基礎研究 (2025 年度)「イオンビームによる越前和紙原料植物トロロアオイの栽培性改善」、研究代表者、2,000 千円 3. 企業共同研究 (2025 年度)「疾病予防効果を持つ機能性成分を高生産する植物の開発」、研究代表者、900 千円 4. 文部科学省 科学研究費助成事業 学術変革領域研究「学術研究支援基盤形成」先進的ゲノム解析研究推進プラットフォーム 先進ゲノム支援事業 (2025 年度)、「和紙原料植物トロロアオイのトランスクリプトーム解析」、研究代表者 【学内】【2 件】 1. 戦略的課題研究推進支援 大型枠 (2025 年度)「越前和紙産業の持続と発展に必須なネリ原料植物の県産化～栽培技術開発と新品種開発の試み」、研究代表者、2,400 千円 2. 個人研究推進支援 ステップアップ研究支援 (2025 年度)「改変型転写因子を用いたホルモンフリー植物器官再生のイメージングとメカニズム解析」、研究代表者、900 千円
(3)特許等取得
< 特許取得 > 【0 件】 < 品種登録出願 > 【0 件】
(4)学会活動等
1. 日本植物生理学会 第 66 回大会 (金沢) 大会実行委員 2025 年 3 月 2. 日本植物バイオテクノロジー学会 代議員 3. Plant Biotechnology 誌 (日本植物バイオテクノロジー学会誌) 編集委員 4. 日本メンデル協会第 2 回大会 大会実行委員 福井 2025 年 6 月 5. 北陸植物学会 第 15 回大会 (金沢) 座長, 2025 年 11 月 8～9 日 【5 件】

5. 地域・社会貢献活動

③ NPO 法人への参加

Ⅰ、 NPO そよかぜ 副代表理事、

活動内容：そよかぜナーサリールームの運営、2015 年～現在に至る

④ 公開講座、オープンカレッジなど

⑤ その他、

Ⅰ、 大野高等学校 探究アドバイザー 2025 年 11 月 18 日

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

Ⅰ、 学生支援委員会 2025 年度～

(3)学内行事への参加

Ⅰ、 オープンキャンパス 2025 年 8 月 3 日

2、 福井工業附属福井高校 入学説明会 2025 年 7 月 28 日

(4)その他、自発的活動など